

## 地域とともに 確かな未来を築く土木技術 —新たなる第一歩—

Civil Engineering to Create a Future Positive with Community :  
we are going to take a new step forward

全国大会実行委員会総務部会総務WG：小松 満、中村 公一

The Japan Society of Civil Engineers (JSCE) 2015 Annual Meeting, with the theme "Civil Engineering to Create a Future Positive with Community: we are going to take a new step forward", will be held at Tsushima campus, Okayama University, Okayama City, Okayama Prefecture. This is the first time that Okayama Prefecture will host the JSCE annual meeting. The keywords in the theme, "with Community" emphasizes cooperation with the local community, "to Create a Future Positive" expresses a sense of responsibility to adequately tackle various issues such as infrastructure aging, and "a New Step Forward" indicates that this year is the 101th year since the establishments of JSCE. It is our intention that this special issue will be an opportunity to reflect on these keywords with a focus on Okayama Prefecture.

Specifically, this special issue takes up topics such as civil engineering heritage in Okayama Prefecture, development of railways, highways, and ports, energy related projects, and characteristic initiatives of southern and northern parts of Okayama Prefecture.

2015年度土木学会全国大会は、「地域とともに確かな未来を築く土木技術—新たなる第一歩—」をテーマに、岡山県岡山市の岡山大学津島キャンパスを主会場として開催される。岡山県での全国大会の開催は初であり、全国大会の主要行事である年次学術講演会は、第70回を数えることになった。大会テーマを表すキーワードである「地域とともに」は地域との協働、「確かな未来を築く」はインフラ老朽化などの諸問題に確実に対応していく使命感、「新たなる第一歩」は土木学会創立101年目がそれぞれ結びついている。現在わが国は、急速に進む人口減少・少子化・高齢化、局地化・集中化、激甚化する豪雨、首都直下地震・南海トラフ地震等切迫する巨大地震、インフラの老朽化などさまざまな課題に直面しており、安全安心で持続可能な社会を構築してゆくために、引き続き土木技術の果たすべき役割は大きい。本特集号では、岡山県に焦点を当て、これらのキーワードを考える契機になることを期待して企画した。

土木技術者はこれまで社会基盤の整備を通じてわが国の社会経済の発展に大きな役割を果たしてきた。まずは岡山県の近世以前と近代の土木技術者の業績を振り返るために、農業関連の遺産の多様性と、その質の高さが特徴である「岡山県の土木遺産」を取り上げる。

岡山県は瀬戸内地域特有の温暖な敷国家石油ガス備蓄基地」は、地下の強固な岩盤内に常温で高圧の液化されたプロパンを貯蔵するもので高圧ガスとしては国内初となる水封式地下岩盤貯槽方式を採用している。この世界最大級である岩盤貯槽プロジェクトは2013年度に土木学会技術賞と2012年度第25回土木学会映画コンクール準優秀賞を受賞した。

土木技術者は直面するさまざまな課題に対し、市民の参画、市民との連携が不可欠である。岡山市ではESDや自転車先進都市を目指した政策が進められており、「岡山市の取組み」では地域の特色を通じて、全国大会の開催地岡山市の理解の一助になることを期待する。また、「中山間地域の活性化事業」で紹介する岡山県北西部に位置する新見市哲西地域(旧哲西町)では、基本的な公共サービスが1個所で受けられる施設が整備されており、隣接した地域交通の結節点でもある「道の駅」と合わせて、「ワンストップサービス」を実現している。国土交通省が検討を進める「国土のグランドデザイン2050」の基本戦略に位置付けられた「小さな拠点」形成の好事例として、その魅力を伝える。

気候と豊かな水に恵まれた「晴れの国おかやま」として知られている。古代より古備の国として栄え、交通の要衝としても重要な位置を占めてきた。次に取り上げる「岡山県の広域交通とネットワーク効果」では、鉄道網と東西南北に延びる高速道路網の整備により地域にもたらされた効果と地域

交通の今後の課題について考える。また、本州と四国の交流を支える「瀬戸大橋」について構想・計画・建設、さらに200年以上利用される橋を目指して行われている維持管理技術を紹介する。

岡山県には一級河川の吉井川、旭川、高梁川が流れており、市街地とそ

